

“住みつづけられるまち” 私の提案

西出・東出・東川崎地区を舞台にまちづくり設計競技開催

「まちづくり設計競技」(まちづくり月間実行委員会・住宅生産振興財団主催)は、まちづくり月間の行事として毎年行われてきました。16回目の今年は、神戸の西出・東出・東川崎地区を課題地として、密集市街地の建て替え更新をテーマに実施されました。このたび、審査結果が発表されましたので、設計競技の概要を紹介します。

これまでのまちづくり設計競技では、ニュータウンの一角を課題にしたものが主でしたが、今回は、阪神・淡路大震災の教訓や「密集市街地整備法」(密集市街地における防災街区の整備の促進に関する法律)の制定をふまえ、密集市街地での「緩やかな建て替えモデルを含む地区更新計画のあり方」についての提案を求めたものです。また、実際に住民参加のまちづくりを行っている地区を取り上げたのもあまり例がなく、どんな提案が出てくるか期待されました。

かなり骨の折れる課題だったと思われるが、事前の応募登録は426件、応募作品は全国から68点に

のぼり、関心の高さがうかがえます。どの応募作も力のはいったもので、審査委員会も入賞作の選出に苦勞したようですが、事業上のリアリティと生活の継続性、提案のユニークさなどをポイントに、特選(建設大臣賞)1点、準特選1点、入選2点が選ばれました。

今、課題地の地元では、住民たちによるまちづくり計画の具体化の話し合いが続いています。入賞作品をはじめ今回の応募作品の中には、数々の優れた提案・アイデアが盛り込まれていますが、その一部でも地元で採用・活用されることを期待しています。あるいは他地区でのまちづくりの参考にしていただければ、応募された方々の労に報

いることができるのではないかと思います。

なお、今回の応募作品の内、入賞作品を含む57点を、11月1日(月)から11月14日(日)まで、まちづくり会館にて公開展示します。それぞれの応募作品から発する意気込みとほとばしるエネルギーをぜひ体験してください。

(神戸市住宅局住環境整備課)



特選に選ばれた作品(藤川敏行氏ほか)

第3期 こうべ市民安全まちづくり大学が開講しました

平成 11 年 9 月、第 3 期こうべ市民安全まちづくり大学がスタートしました。今年は、入門講座・まちづくり講座の両講座とも、募集定員をはるかに上回るご応募をいただき、最終的に入門講座205名、まちづくり講座67名の皆さんに受講いただくことになりました。

9月2日(木)の午後6時30分から、神戸市教育会館において開講式が行われ、山下助役と学長から祝辞をいただきました。今年度も学長には、神戸大学工学部長・都市安全研究センター長の北村新三先生にご就任いただいています。



助役あいさつ：

震災をはじめ、私たちの安全・安心を脅かすさまざまな出来事が相次いで起こっている。最近では8月にトルコ共和国で大地震が発生し、阪神・淡路大震災を超える大きな被害が出ている。そうした災害などに皆さん自身が対応するために、本大学で正しい知識を身につけるとともに、地域社会での結びつきを強めてほしい。これまで受講された皆さんはすでに各地域で安全マップづくりなどに活躍されている。皆さんも今後大いに学び、その成果を生かされるよう期待している。



学長あいさつ：

震災以来、神戸だけでなく各地で防災に対する関心が高まっている。そうした中で、神戸大学では平成8年度から都市安全研究センターを設置した。ただ、防災というのは単に研究者が大学で研究しているだけでは不十分であって、市民の皆さんのご批判をあおぎ、成果を実際に活用していただいてこそ意味があると考えている。本大学では、私たちの研究の成果を皆さんに分かりやすくお伝えしていきたい。皆さんにとって実り多い講座になるよう願っている。

開講式の終了後には、神戸大学都市安全研究センター副センター長の沖村 孝教授から、「神戸の土砂災害について」という演題で記念講演をいただきました。(講演内容の詳細については、大学のホームページをご覧ください。アドレスは、<http://www.city.kobe.jp/cityoffice/15/092/college/index.htm>です。)

☆☆ 平成11年度 こうべ市民安全まちづくり大学 ☆☆ ☆☆☆ 第1回 上級コースが開催されました ☆☆☆

平成 11 年 9 月 12 日、まちづくり会館 2 階ホールで、第 1 期、第 2 期市民安全推進員を対象にした上級コースが開催されました。当日は 33 名の方が参加し、「安全で安心なまちづくりの先進事例」と題して、(株)コープラン代表取締役 小林 有雄氏にご講演をいただきました。講演の中では、平成 10 年度から全国で展開されている建設省の「総合技術開発プロジェクト」(総フロ)事業が説明されました。また、他都市の先進事例を建設省 建築研究所の糸井川 栄一氏並びに、(有)大久手計画工房東京事務所長の伊藤 雅春氏、および所員の今井 邦人氏から報告していただきました。平成 11 年度は神戸市長田区の真陽地区をモデルに実践研究が進められることになっていますが、上級コース受講者の中で一緒に研究される方を募ったところ、9 人の方に参加していただくことになりました。

◆講義の最後に、参加された方々に記入していただいたアンケートの中から、ご意見をいくつか紹介します。◆

◇先進地域の事例がとても参考になりました。今後、自分の地域でも実践したいと思います。

特に、自治会ごとの防災訓練が身近で良いと思いました。(東灘区・兵庫区・須磨区・西区男性)

◇総フロ事業の説明をしていただいたが、引き続きその後の調査研究結果も聞きたい。(兵庫区男性)

◇内容は難しかったが、地域において安全で安心なまちづくりを進める上で、少しでも参考にできれば、今後のまちづくりに活かせると思います。(灘区・垂水区女性)

◇現在、地域でマップづくりを進めていますが、この上級コースで学んだことを参考にして、防災福祉コミュニティの活動に生かしていきたいです。(中央区女性)

◇地方分権・地域主権が進む中で「自分たちでできることは自分です」という意識で活動しているグループが実際にあり、そして、増えていることを知り、たいへん刺激になりました。(須磨区男性)

「まちづくり」って何？ NO. 4 — まち資源の発見・発掘(1)

前二回では、まちづくりのきっかけづくりとして「マップづくり」と「まちづくりイベント」について述べた。これらをもう少し普遍的、包括的な言葉で言い換えると、「まち資源の発見・発掘」であり、それこそが、まちづくりのきっかけとなり基礎となるのである。「まち資源」とは何か。…まず、誰でも思いつくのが、まちの歴史である。国ごとに歴史があるように、まちにも固有の歴史がある。それが、歴史上意義があるかにかかわらず、歴史がなければ、当然ながら現在も未来もないのである。次に思いつくのが自然である。自然もまたそれが、特筆すべき価値があるかどうかにかかわらず、人為をほどこされていたり破壊されているという現実も含めて資源である。見過ごされやすいのは人々が営んできた生活そのものも、まち資源の重要な要素である。商店街や工場などの経済活動の場や集会場、風呂屋などの人の集まる場、職人やまちの歴史家などの人材、まちに住む人の気質など生活資源は数えあげたらきりが無いほどである。

しかし、これら、まち資源=自然・歴史・生活資源は、まわりの人ばかりか、そのまちに住んでいる人もなかなか気づかない。あるいは、マイナス面ばかり意識して、資源として活用する発想が見い出せない。さらには、地名などある一面の特性にとらわれ過ぎて、まちの発展性をかえて損う。等々、本来、まちづくりの基礎として最重要の要素であるにもかかわらず、それを有効に活用することは簡単ではない。それもそのはずで、都市計画においても、開発か歴史かどちらを優先するかは、古今東西を問わず重大問題である。ハリのように、古い町並みを保存しつつ、ルーブル美術館のエントランスであるガラスのピラミッドをはじめとするグランプロジェクトの数々が、市民を大議論に巻き込んでいきながら、ダイナミックに推進されているまちは稀有の存在と思われる。



私にとっても都市計画局時代、何をまち資源としてとらえ、それをどうまちづくりに活用し、また、開発との調和を図っていくかは、最大の関心事であり、かつ難問の一つであった。この問題は、私がまちづくりにかかわっていく以上、自問自答を繰り返すことになると思われるが、現段階での考え方を若干述べてみたい。

まず第一に、まち資源とすぐ思いつくものを直接的にとらわれすぎて表現することは、まちづくりに必ずしも有効でないということである。東京の国立近代美術館に行く途中に「竹橋」という地名の場所があり、本当に高欄を「竹」に模した「橋」がかかっているが、渡っていて余り気持ちのよいものではないと感じるのは私ばかりではないと思う。そのほか海をイメージしたイルカのポラードやイニシャルが入ったカラーコンクリート平板など、地域の特性を生かすという命題のもと担当者の苦労の跡が忍ばれるストリートファニチャー等はまちに少なくない。美意識や価値観は、個人差があり、普遍的なものはないと言われるが、あまり、個人が独善的に考案したものは、多くの人に共感が得られないことが少なくない。また、少なくともその時点で発想がとどまり、創造性に結びつかない。従って、何がまち資源かという難しい問いには、人々の共感によって決定されるという答えが最も適切であると考えられる。灘区のまちづくり会議の委員の皆さんが発行したミニコミ紙「なだだな」の中に「開かずの踏切」の記事が掲載されていた。人々の記憶の中に明確にまちの歴史として残され、ミニコミ紙に載せる価値があるとみんなで共感をもった時点で、それは一つのまち資源となったのである。すなわち、まち資源とは行政や特定の個人が決めうるものでなく、そのまちに住む住民がお互いに共感しうることによって見出され、逆にその発見・発掘するプロセスこそが共感と将来のまちづくりの発展を生み出すと考えられる。

「兵庫津の道」の整備にかかわったとき、あれ程の資源の豊富な地域の整備にあたって、その資源の発見・発掘のプロセスを住民と一緒に共有できておれば、その後の住民主体のまちづくりの大きなきっかけの一つになっていたと思われる。

(前中央区まちづくり推進課長・現教育委員会社会教育部体育保健課長 見通孝)

まちづくり会館からののお知らせ

まちづくり会館秋の企画展

居留地返還100周年記念

小松益喜展

絵画の中の居留地と異人館

11月6日(土)～11月23日(火)

午前10時から午後6時まで(水曜日休館)

まちづくり会館 地階ギャラリーで入場：無料

今年の企画展は、居留地返還100周年記念事業の一環として、旧居留地と関係の深い小松益喜氏の作品展を神戸市立小磯記念美術館のご協力で開催することとなりました。

多くの方のご来館をお待ちしています。

協賛：元町商店街連合会

後援：神戸市・神戸市教育委員会・神戸市民文化振興財団・みなと元町タウン協議会

協力：神戸市立小磯記念美術館

こうべまちづくり会館 地階ギャラリーの予定

期 間	内 容・テ ー マ	主 催 者
10月7日(木)～12日(火)	'99 神戸芸術学林絵画展	神戸芸術学林
10月14日(木)～19日(火)	燦の会洋画展	出口 文雄
10月21日(木)～26日(火)	遥洋会油絵展	船曳 朔充
10月28日(木)～11月2日(火)	第13回朝の会制作展(油彩・水彩・素描)	朝の会

こうべまちづくり会館 1階オープンギャラリーの展示

10月1日(水)～31日(金)	第1回神戸まちなみ緑花コンクールパネル展	神戸市・神戸市緑化協会
12月までの第2日曜日 14時・15時	パチュニアサロンコンサート	元町4丁目商店街・アスク音楽院

すまい・まちづくりのご相談は

- すまい・まちづくり人材センター
(こうべまちづくり会館 3F)
電話 078-361-4377 FAX 078-361-4584
受付は、月・火・木・金曜の午前10時～午後5時
- 祝日・土・日曜は
まちづくり相談コーナー で受け付けます
(こうべまちづくり会館 4F)
時間は、午前10時～午後5時

自治会活動などのご相談は

- コミュニティ相談センター(まちづくり会館 4F)
会報等の印刷サービスや学習会へのインストラクター派遣など
受付は、午前10時～午後6時
電話 078-361-4565



〒650-0022

神戸市中央区元町通4丁目2-14

電話 078-361-4523

FAX 078-361-4546